

伊那市の地域課題等について

○地域福祉コーディネーターとは

- ・地区、地域社協を核とした住民主体の地域福祉活動をより一層推進し、住民支え合い活動の推進を図るための取り組みを行っています。
- ・公的な福祉サービスでは十分な対応ができない課題などに対し、様々な団体・組織の地域福祉活動を育むことにより、地域の生活課題の解決を目指しています。

○相談支援系の相談内容について

- ・地域包括支援センターの機能をもち、高齢者の介護、健康、医療、権利擁護の相談について、専門職が互いに協力しながら「チーム」として総合的に高齢者を支える支援をしています。
- ・障害者虐待防止センター機能を果たし、相談対応を行っています。
- ・スタッフの職種は、主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士・介護支援専門員などです。

○8050問題とは

- ・子どもが病気を抱えていたり、引きこもり状態が長期化して中高年となる一方、生活を支えてきた親も高齢化により収入が途絶えたり、病気や要介護状態になったりして家族が経済的に孤立したり、困りごとが複雑になる問題のことです。

○新福祉まちづくりセンター ふれあい～な 相談対応

〈高齢者・生活困窮などに関する総合相談窓口〉

- ・保健福祉の専門職が高齢者・生活困窮などのご相談に応じています。
- ・例えばこんな困りごと…最近親の物忘れが進んだ、介護が大変だがどうしていいかわからない、介護サービスを受けたい、新型コロナの影響で失業、生活が苦しいなどです。

○コロナ禍により相談内容の変化について

- ・金銭的に困っている相談の増加
- ・高齢者の虐待相談の件数の増加
- ・認知症状がある方の介護・医療に関する相談は継続

○地域で大切なこと

- ・近所の方による見守り、声かけ
- ・ちょっとしたお手伝い

○誰もが住み良い伊那市を目指して

- ・行政は、縦割りを越えて連携する
- ・市民皆さんにとって住み良い伊那市を目指す
- ・市民の皆さん、民間、行政、社協などの様々な主体が、可能性を探りながら一緒に取り組んでいく

取組み事例発表:コロナ禍における社協活動の継続について紹介します。

紹介地区：上牧社会福祉協議会

対談者：上牧社会福祉協議会 副会長 宮原 勝 氏
伊那市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 北原 葉子

○コロナ禍の活動ポイントについて

- ・体操教室を続けることは体のためでもあるが、集まって交流することが大切であるため、区、社協、体操教室の講師や参加者の皆さんと話し合い続けていくことにしました。
- ・地域の皆さんとどうしたら続けていくことができるかを話し合い、実施してきました。

○他の地区・地域社協の皆さまに向けて

- ・抱えこまずに、地域福祉コーディネーターと相談していくことが必要だと思います。

○体操教室継続の工夫

- ・参加者の皆さんはマスク着用
- ・会場の換気（窓や扉は常時開放、換気扇も回す）
- ・人との距離は広めにとる

取組み事例発表:「ながら見守り隊」の活動について紹介します。

紹介地区：上の原社会福祉協議会

対談者：上の原社会福祉協議会 会長 山本 幸博 氏 事務局長 仲田 穂積 氏
伊那市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 埋橋 小百合

○はじめたきっかけや具体的な内容について

- ・区民が日課として散歩をしています。犬の散歩や回覧板を回す時などに地域の中を歩く時間があります。
- ・空いている時間や自分の歩く時間に合わせて、腕章をつけて歩くことで見守りをいただいています。

○参加されている方について

- ・区の役員が61名、その他参加人数は20名、計81名に腕章を配布しています。
- ・歩きながら、地区の道路、電気がつけっぱなしや新聞が郵便受けに入れっぱなしなど、気になったことは、区の役員などに報告していただく、田畑にいる方に挨拶しあう中で、気かけ合って、親睦を深めています。

○始めてみての効果について

- ・腕章があることによって声をかけあいやすくなりました。
- ・役員さんは歩く時だけでなく、車に乗っているときや、活動している時もつけている方もいます。

○今後の地域への願いについて

- ・子どもが多い区のため、声をかけあいやすい地域になってほしいです。
- ・これまでは社協として高齢者向けの取り組みが多かったが、これからは、対象年代の幅を広げ、高齢者から子どもまでふれあい活動を通して交流や活気のある地域になってほしいと思います。